

(注)本相場見通しは、投資に関する断定的判断を提供、またその内容に関する責任の一切を負うものではありません。投資の最終判断はご自身でお願い致します。

配信停止をご希望の方は、こちらまで

<http://r26.smp.ne.jp/o/Pg/50361/HBa9CdH7ci0D/out?stop=ldog>

1月7日(水)「為替適時打11(タイムリーヒット)」

-

「今後1週間の予想レンジ」

ドル円 90-95 ユーロ円 124-129 ユーロドル 1.33-1.38

「ゲームプラン&チェックポイント」

株上げ、ユーロ高、資源高、円安が年末から続いているがユーロがその上昇スピードが速かったためか反落している。ただユーロから高金利通貨、資源国通貨に乗り移っている兆しはある。ガザ問題やロシアのウクライナへの天然ガス供給停止問題もあって資源価格が上昇しているからだ。ユーロやスイスを除くクロス円、すなわち高金利通貨クロス円の上昇の余地はまだある。

「ファンダメンタルズ」

1月20日のオバマ大統領就任に期待が高まっている。支持率も82%に上昇している。早々に打ち上げた「300万人雇用創出」と「3100億ドル減税」の法案がスムーズに議会を通過するかどうかは米国の株価のみならず世界の株価の今後がかかっている。株価が安定すればリスク選好の流れとなりドル安円安の動きが復活するだろう。

年末から年初ではその期待を示す動きが続いている。ただ次項で述べるがそれをリードしてきたユーロにやや変調が出ているのが1月20日の就任式出打ち消されるかどうかは注目点でもある。

「ニュース、トピック、イベント」

ユーロドルは11月の1.25台での鍋底でエネルギー貯め一目均衡表の雲を一気に突き抜け1.47まで上昇したが200日移動平均線で跳ね返された。その後イタリアミラノ市の債券スキャンダルとユーロ圏12月のCPIがECBの目標とする2%を下回ったため利下げ観測も出てきた。この二つの問題を消化するまでユーロは揉み合いとなる(ECB理事会は1月15日)。

「テクニカル」

ドル円もユーロドルやクロス円に遅ればせながら一目均衡表の雲に近づいていたが、1回

目の挑戦では雲の下限の 95 円を前に失速した。これで終わったわけではなく今後は一目均衡表の雲が垂れ下がってくるので横ばい推移すれば自然と雲の中に入り上げけるチャンスも出てくる。世界の株価が安定すればその可能性も大きくなって来る。

「需給」

日本の輸出企業は去年の 87 円へのドル円の急落時は手を出せなかったが、漸くドル円が戻り歩調となってきたので、戻り高値を狙っての売り注文を出しているのが一本調子にドル円が上昇しない理由であろう。

「当局」

政府や日銀は成長見通しをなかなかマイナスにはしないものだ。最初からマイナスにすると政府の能力を疑われるからだろう。従って民間の予想より強気の数字が出やすい。政府の 2009 年成長見通しはゼロだ。しかし日銀は現実に鑑み予想を-0.6%程度にするのではないかという憶測がある。予想を強めにしがちで金融緩和も遅くなりやすい日銀が大胆にマイナス成長見通しを出すということは経済実態はかなり深刻な状態になっているといことだろう。

「外貨投資あれこれ」

ちょっと長い文章ですが、外貨投資と格付けのリポートを作成いたしましたので別途ファイルで添付致します。

「為替取引と格付け」

格付けとはどのように利用されているのだろうか。一般的に生命保険など機関投資家が債券投資を行う場合にトリプル B 格以上が投資適格格付、ダブル B 格以下が投機的格付としている。債券の格付では格付け機関によって呼び方は異なるが、高い方から順にトリプル A、ダブル A、シングル A、トリプル B、ダブル B、シングル B、トリプル C、ダブル C、シングル C 格およびシングル D 格までの大きな段階がある。

これを債券投資ではない FX のスワップ狙いの取引にそのまま利用することは厳密に言えば適切ではないが投資する通貨の国の信用状態を知る上で参考になる。ただ昨年から世界を揺るがせたサブプライム問題においてサブプライムローンを証券化した債券に格付け会社の S&P 社はムーディーズ社が最上級格付けを付与していたことなど絶対的に将来の安全を保証するものではない。最上級格付けを付与していたにも関わらず破綻したことで G-7 などの世界の金融当局は格付け会社の指導管理を徹底することを表明している。

格付けはその時点での投資状況を示すものであり将来を保証するものではない。格付け

は保証でもなんでもない。我々が経験する人間ドッグや健康診断のようなもので現在の状況は教えてくれるが将来まで保証しない。昨年は S&P のアイスランドの長期債権に対する格付けは AAA であったが現在は BBB+ までに引き下げられている。もう少しで投資対象からより危険な投機対象となってしまう。

FX のスワップは通貨そのものに投資するものであり、債券に投資するものではない。債務支払い停止（デフォルト）などはないがその国の国債が支払い停止になるような状態になれば金融市場も混乱し正常な価格形成がなされるかどうかはわからない。ということで FX のスワップ投資をする上で当該国の自国通貨建て国債格付けを参考にすることは一つの方法でもある。

ちなみに世界的に有名な格付け会社の S&P やムーディーズの格付け以下のようになっている。日本国債は S&P で上から 3 番目、ムーディーズで上から 4 番目である。

「S & P」 日本国債（円建て）AA

AAA

AA+ -

A + -

BBB+ -

BB + -

B + -

CCC+ -

CC

「ムーディーズ」 日本国債（円建て）Aa3

Aaa

Aa 1,2,3

A 1,2,3

Baa1,2,3

Ba 1,2,3

B 1,2,3

Caa1,2,3

Ca

C

日本はほぼゼロ金利なので同じようにゼロ金利になった米国以外にスワップ狙いで投資

すればスワップは受け取れる。

日本の格付けと同等以上と日本以下で投資格付けの下限の BBB に分けて S&P の格付けから取り上げたい。ただユーロについては国別格付けはそれぞれで違うが投資通貨はユーロ一種類なので今回はドイツの格付けに代表させる。

1.日本より格付けが上

AAA 英国、オーストラリア、カナダ、シンガポール、スイス、スウェーデン、デンマーク、ドイツ、ニュージーランド、米国、

AA+ 香港

2.日本と同じ

AA 該当なし

3.日本以下で BBB 以上

AA- 台湾

A+ 韓国、チェコ、中国、ボツワナ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、

A タイ、ポーランド、

A-

BBB+ アイスランド、ブラジル、ペルー、ロシア

BBB ハンガリー

BBB- ルーマニア

日本の格付けはバブル崩壊時には A+ となりアフリカのボツワナと同等になったと話題になった（ボツワナに対して失礼千万であったが）、小泉内閣時代の財政改革で AA へ 2 段階上昇した。もちろん麻生内閣で再び赤字国債を 7 兆円発行し国と地方を合わせた債務が 800 兆円で GDP の 160% ととなり再び格下げの可能性も出てきている。ちなみにユーロ圏で通貨統合に参加している国は債務が GDP の 60% と以下という規律があるので日本と比べれば財政状況は健全である。ちなみに

以上。

以下「格付け豆知識」

ご参考までにムーディーズの格付け基準は以下の通りである。

ムーディーズの長期格付けは予想損失の指標となることを意図しており、そのためデフォルト確率とデフォルト時の損失規模の両方の要素を考慮する。この 2 つの要素の間にはトレードオフの関係があり、予想損失率が低ければデフォルトを起こした債務であっても投機的等級上位の格付けが付与されることがある。

さらに格付けにはカントリーシーリングという言葉も出てくる。

ムーディーズの外貨建て債務やカントリー・シーリングの基準は以下の通りである。

ムーディーズは、格付け対象債務が所在する全ての国（あるいは通貨圏）に、外貨建て債務のカントリー・シーリングを付与している。カントリー・シーリングは通常、その国または通貨圏の通貨規制を受けうる事業体が発行する外貨建て証券に付与される最高の格付け水準を示す。ほとんどの場合、シーリングは、政府の外貨建て債に付与されている（あるいは付与されうる）格付けと同水準となる。ただし、シーリングに示されるよりデフォルトリスクが低いと判断される固有の特性をもつ外貨建て証券については、カントリー・シーリングを越える格付けが認められることがある。そうした特性は、発行体固有のものか、外貨危機に見舞われた場合に政府がとるとみられる政策に関するムーディーズの見方に関連するものである。

S&P やムーディーズは日本語のホームページもあり国債だけではなく以下のような債券や金融商品、発行体の格付けも公開されているので是非参考にして頂きたい。

* 格付けは 事業会社、銀行・証券、保険、サムライ債、国債・特別債、ストラクチャー・ファイナンス、ABS・CDO、ABCP、REIT、投資信託、大学などにも付与している。

エース取引株式会社 オンライントレード部マーケティング担当

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-29-24 エースファーストビル

TEL:03-5485-4079 FAX:03-5485-5081

mail: fxmail@acekoeki.co.jp

ホームページ <http://www.acekoeki.co.jp/>

- ・ジャスダック証券取引所上場（銘柄コード：8749）
 - ・金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第251号
 - ・（社）金融先物取引業協会会員 / （社）日本商品投資販売業協会会員
-

本外国為替証拠金取引「エースでねらえ！FX」(以下、本サービス)を提供する者の名称はエース取引株式会社(登録番号：関東財務局長(金商)第251号)、社団法人金融先物取引業協会および社団法人日本商品投資販売業協会に加入している金融商品取引業者です。

本外国為替証拠金取引「エースでねらえ！FX」は商標登録出願中のサービス名称です。本サービスは証拠金による取引であり、実際の取引金額は証拠金の額に比して大きいいため、少額の資金で大きなポジションを保有することが可能ですが、その損失の額が当初預託していただいた証拠金額を上回る可能性があります。

各国の政治、経済状況の変化及びそれに関連する金融市場の変化、金利相場、外国為替相場の変動、スワップポイントの支払い、およびレバレッジを高めた場合、預託した証拠金の損失、若しくは預託した証拠金を上回る損失となる可能性があります。

本サービスの最低取引単位(1枚)は1万または10万通貨単位です。売買手数料は無料、預託していただく証拠金の額は、1枚あたり4,000円～2,200,000円で、通貨ペアの種類等により決まります。

現受けの際は1通貨あたり50銭の手数料および5,000円の送金手数料がかかります。

本サービスでお取引を始める際の証拠金に対する取引金額の比率は、約1倍～約200倍(2008年12月1日現在)で、日々の為替レートや証拠金額の変更等で異なります。

当社が提示する各通貨の価格及びスワップポイントは、売付けと買付けの価格に差があります。

> ご契約の際は契約締結前交付書面を十分お読みになり、リスクや取引の仕組み等の内容をよくご理解いただき、ご自身の判断と責任においてお申込みください。

> お客様のご相談につきましては、当社本社内/営業管理部顧客サービス担当(電話：03-5485-4161)、若しくは金融商品取引苦情相談窓口(電話：0120-64-5005)までどうぞ。

本メールはお客様への情報提供のみを目的として作成したものであり、投資の勧誘並びに、断定的な投資判断の提供を行うものではありません。また、本メールの内容の利用に際しては、お客様ご自身の判断と責任でなされますようお願い申し上げます。本メールは信頼できるとされる各種データに基づき作成していますが、エース取引株式会社はその正確性及び完全性に関して責任を負うものではありません。また、本メールに記載されている内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。本メールは宛先名にあるお客様に限りご利用ください。従って、メール内容のいかなる部分も複製または転送等を行わないようお願いいたします。また、送信上の誤操作により、受信される予定でない方に配信されました場合は、送信者までお知らせいただき、受信された本メールは削除下さいますようお願いいたします。電子メールの特性上、送信過程で内容欠落、送信遅延、ウィルスの混入その他の不都合が生じることがございます。これらにつきましてエース取引株式会社は責任を負いかねますのでご了承下さい。また、エース取引株式会社は本メールの送信先宛先? Eu 条ト視する権限を持っています。

お客様の個人情報は、当社の個人情報保護ポリシーに基づき、適切に管理させていただきます。

・個人情報保護ポリシー: <http://www.acekoeki.co.jp/site/privacy.html>

弊社に関するお問い合わせは下記URLよりお願いします。

<http://www.acekoeki.co.jp/site/form.html>

All Rights Reserved, COPYRIGHT(c) ACEKOEKI LIMITED 2008
